



## 「原子力安全」調査専門委員会 第4回放射線影響分科会

平成23年7月2日(土)に第4回放射線影響分科会の会合を開催した。

主な議題としては、①海洋拡散に関する現状と課題および海洋拡散のシミュレーション結果、②放射線測定の問題点と留意事項、③HPに記載されている解説記事の見直し、④分科会の今後の活動について、を採りあげた。

①では、文科省試料の分析の他にそれぞれの研究機関での独自での取り組みの紹介があった。海洋拡散計算では、ソースタームの推定や大気-海洋結合汚染物質モデルを用いた現実的な評価が行われつつあること、またシミュレーションの結果では、沿岸部の海水放射能測定結果に基づいた漏洩量の推定結果が報告された。さらに、放射線モニタリングに関連して、緊急時下では試料採取や測定条件に多くの困難を伴うことが紹介され、人材育成と組織的な対応の重要性が指摘された。②では、測定目的の分類、測定器の特徴、公開されている測定値の解釈、放射線計測全般に共通する注意点等が紹介された。また、食品や飲料水では、簡易測定の必要性は高いが、汚染レベルにより遮蔽体を用いた測定が必要になることが示された。今後の課題として市中に出回っている測定器の調査の必要性が指摘された。③では、現在学会HPに掲載されている解説のうち、一部現状にそぐわない部分があり修正することとした。新たな解説については、すでに国、関連研究機関、他学会等のWeb上にさまざまな解説が提示されているので、本分科会では、本学会と特に関連の深い項目について、必要に応じて対応していくこととした。④では、これまでの検討結果を秋の大会時に開催されるシンポジウムで報告することとした。また、今後の検討課題として、事故や災害対応時の教訓を検討すべきとの意見が出された。